

行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	地磁気観測		事業開始年度	昭和31年		作成責任者
担当部局庁	気象庁観測部		担当課室	計画課		課長 川津 拓幸
会計区分	一般会計		上位政策	自然災害による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	気象業務法(第3条、第4条 他) 活動火山対策特別措置法(第19条)		関係する計画、通知等	INTERMAGNET計画(国際地球電磁気学・超高層物理学協会、平成4年度より参画) 地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について(建議)(平成20年文科省科学技術・学術審議会)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	地球内部及び地球から太陽に至るまでの空間の電磁気的状態とその活動の監視を行い、無線通信障害の警報や国土の測量等のための基礎資料を提供するほか、地磁気変化により火山噴火を予知するための研究観測を行い、災害の予防、交通の安全確保等の公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	地磁気観測所(茨城県石岡市)、女満別出張所(北海道大空町)、鹿屋出張所(鹿児島県鹿屋市)を中心として、人工的なノイズの少ない環境の中に磁力計を設置し、太陽起源、地球内部起源の磁場・電場変動を常時観測している。得られたデータは地磁気観測所において解析し火山活動の評価に係る研究を行うと共に、国内では独立行政法人情報通信研究機構に通報して宇宙天気予報に利用される他、世界各国に通報している。					
実施状況	活動指標名	単位	H19年度	H20年度	H21年度	備考
	地磁気絶対観測地点数	力所	6	6	6	観測地点: 柿岡、女満別、鹿屋、いわき、北浦、父島
	地電流観測地点数	力所	3	3	3	観測地点: 柿岡、女満別、鹿屋
	空中電気観測地点数	力所	2	2	2	観測地点: 柿岡、女満別
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	35	35	408	69	
	執行額	35	35	327		
	執行率	100.0%	100.0%	80.1%		
	総事業費(執行ベース)	—	—	—		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	気象庁自らが行う契約等に基づき支出していることから支出先や用途については全て、明確に把握できている。また、支出に当たっては検査等を行い実施内容の確認を行っている。				
	見直しの余地	・地磁気観測は、地球環境を構成する地球磁場の変動監視等を目的とする国際観測網の中核として重要な役割を担っている。その成果は火山噴火の予知、磁気図の作成、無線通信障害警報のための基盤情報として、また、人工衛星の安全運用のための必須情報として広く利用されており、地磁気観測業務を継続して実施することが不可欠である。 ・今後とも着実かつ適切に業務を遂行するとともに、調達の一層の競争性の確保など、効率的、効果的な予算執行に努める。				
予算監視の効率化						
補記	【予算科目】		(21年度予算額)	(21年度決算見込額)	※平成21年度の予算額が増加しているのは、平成21年度補正予算372百万円により、国内の地磁気観測の基準となる3地点(柿岡、女満別、鹿屋)の地磁気連続観測施設を更新したためである。	
	・232気象官署施設費		372百万円	291百万円		
	・95気象官署施設整備に必要な経費		1百万円	1百万円		
	・95191-1202-08 施設施工旅費		1百万円	1百万円		
	・95191-1203-09 施設施工庁費		370百万円	289百万円		
	・95191-1204-15 施設整備費					
	・233観測予報等業務費					
	・95自然災害による被害を軽減するための気象情報の充実に必要な経費	36百万円		36百万円		
	・95191-2123-08 職員旅費	2百万円		2百万円		
	・95191-2123-09 観測予報庁費	34百万円		34百万円		
合 計	408百万円		327百万円			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

気象庁
327百万円
〔地磁気観測に係る企画立案及び事業の実施〕

【一般競争入札】

A. 民間事業者 (5社)
294百万円

〔地磁気観測所女満別出張所観測施設等整備工事等〕

【随意契約】

B. 民間事業者 (78社)
30百万円

〔地磁気観測総合処理装置ほか貸付等〕

【随意契約】

C. 地方公共団体等 (10者)
63千円※

〔観測敷地提供〕

※少額のため千円単位

旅費
3百万円

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。使途
 と費目の双方で
 実情が分かるよ
 うに記載)

A. 河西組(株)					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
工事費	地磁気観測所女満別出張所観測施設等整備工事	79			
計		79	計		
B. 三菱スペース・ソフトウェア(株)					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
借料及び損料	地磁気観測総合処理装置ほか貸付	13			
計		13	計		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計			計		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計			計		

【別紙】

A. 民間事業者(5社) 294百万円		
No.	支出先	金額 (百万円)
1	河西組(株)	79
2	テラテクニカ(有)	72
3	曾秀建設(株)	66
4	島津製作所(株)	57
5	三菱スペース・ソフトウェア(株)	20
6		
7		
8		
9		
10		

B. 民間事業者(78社) 30百万円		
No.	支出先	金額 (百万円)
1	三菱スペース・ソフトウェア(株)	13
2	テラテクニカ(有)	2
3	紀伊国屋書店(株)	1
4	ティ・アイ・デイ(株)	1
5	国際電子工業(株)	1
6	イセブ(株)	1
7	イワナシ(株)	1
8	東横システム(株)	1
9	NTTコミュニケーションズ(株)	1
10	吉野計測(株)	1

C. 地方公共団体等(10者) 63千円		
No.	支出先	金額 (千円)
1	個人	28
2	個人	10
3	個人	8
4	宗教法人観音寺	6
5	北海道森林管理局	3
6	関東森林管理局	3
7	阿蘇市	3
8	南阿蘇村	1
9	石岡市	0.5
10	東京都大島町	0.5